

大豆増産対策は

これでよいのか

全国農業協同組合連合会顧問

黒 川 計

政府は昭和49年度から食料用大豆の国内生産の強化を旨として、大豆の増産対策に着手した。対策の概要は次の通りである。

(1) 大豆生産奨励金の交付

大豆生産振興地域内で生産された大豆で「大豆なたね交付金暫定措置法」に基く調整販売の対象となったもの、または「主要農作物種子法」により、振興地域内で生産して種子用大豆として販売したものが価格助成の対象となる。

奨励金の額は60kg当り2,500円と2,300円の2段階である。要するに現在の大豆価格では引合わない場合の、価格差補給金的なものである。

(2) 大豆生産に必要な機械導入補助

(3) 大豆増産技術改善展示ほ設置費補助

予算計画としては1,000市町村を対象として1カ所平均約4万5千円の補助をする。

(4) 大豆原種増殖ほ設置補助

原種増殖のための採種ほの助成

大豆の栽培面積は、戦前は30~40万haあり、戦後も昭和30年頃までは40万haあり、その収穫高も40~50万tあった。ところが昭和48年の栽培面積は88千haで、戦後で最も多い昭和29年の約2割に激減した。

この原因は、日本経済の高度成長の中で、穀菽作物の栽培が経済的に引き合わなくなったためである。すなわち鉱工業生産をも含めて、経済性に応じて世界的に生産の分担方式をとる政策をとったため、日本の畑作生産は短期間に激減し、大豆も安楽死寸前ということになった。

それが昨年、世界的な農産物の需要増により、ドルは持っけていても穀物は買えない実情となった。特に大豆は契約ずみの分まで売ってくれないことになった。

この場になって初めてあわてた。日本人は大体お人好しで、のんきにできている。欧州諸国では何千年来の苦勞から、こんなことはしない。こう

いうことは、しかし日本でも初めてではない。

米騒動のあった大正7年に同様のことがあった。当時は第一次世界大戦の末期であり、日本は台湾や朝鮮などから食糧の移入をしていたが、外に米国やカナダから小麦や米の輸入をしていた。この輸入が全部停止された。

当時欧州では満5年に亘る大戦のため農業生産も荒廃し、英・仏などの連合軍諸国は食糧欠乏に悩まされたものであろう。必要な食糧は大量米国やカナダなどから輸送され、日本にまで輸出する余裕はなくなったのである。

そこで大正7年に農商務大臣は各道府県知事に、当時の食糧事情を述べ、国民に代用食をするよう通達を出している。

当時私は中学一年生であり、農家である私の家でも米6・大麦4の割合の麦飯の中に大根やその葉を混ぜたり、甘藷を入れた麦飯にしたりしたことを憶えている。第一次世界大戦のときは、日本は英・仏や米国と同盟関係にあったのである。

大豆の増産は、農産物による蛋白質の生産という意味で大きな意義がある。47年現在、日本人が摂取している蛋白質の量は1人1日当り78kg、これを年間の素材別消費量で見ると、魚貝類33kg、牛乳・乳製品52kg、肉類14kg、卵15kgとある。

非常時がきて食糧欠乏の時代がくると、第2次大戦の経験から考えると、家畜は激減し、豚のごときは数十分の一に、にわとりも1割くらいになる。牛乳も数分の一になるかも知れない。

こうなると、蛋白質は魚貝類と農産物から主としてとるほか方法がない。このような時に備えて、微生物による蛋白質の補給までも考えておかねばなるまい。

このようなことまで考えて大豆の増産を図るとすれば、蛋白作物研究所などをつくって、大豆ばかりでなく他の蛋白作物の研究をしなければなるまい。10年先、20年先の世界の人口増を考えれば、今からこの種の研究に着手する必要があるのではあるまいか。

農林省の大豆増産対策は、差当りの煮豆や豆腐用を目標にしているのであろうが、それでも、この程度で目標を達成できるであろうか。甚だ危いものと思われる。

単位面積当りの収量を飛躍的にあげるにはこの

際思い切って研究体制を強化することである。大正15年と昭和7年に、小麦増産のため農林省が実施した方式が参考になると思われる。

小麦の増殖奨励事業の第一次計画は大正15年からで、その事業は次の事項であった。

(1)小麦と小麦粉の関税の引上げである。
大巾な関税の引上げを行っている。

(2)小麦の品種改良と栽培法改善試験

(3)以上の品種改良試験と大正5年から実施していた「米麦品種改良奨励規則」による原採種は設置事業による優良種子の増殖施設とを結びつけて、優良種子の増殖配付に努めた。

第二次小麦増殖計画は昭和7年からで、特に次の事業に力を入れ実施した。

(1)優良品種育成施設の強化拡充

(2)成優良小麦種子の増殖配付奨励

〔資料〕 生産農業所得総計の計測の範囲

- § 米…玄米, ぐず米
- § 麦類…小麦, 6条大麦, 2条大麦, 裸麦, えん麦, らい麦
- § 雑類…とうもろこし, あわ, ひえ, きび, そば, もろこし等
- § 豆類…えんどう, そらまめ, だいず, あずき, いんげんまめ, らっかせい, ささげ, りょくとう等
- § いも類…かんしょ, はれいしょ
- § 野菜…とうもろこし(未), えだまめ, さやえんどう, そらまめ(未), 青さやいんげん, きゅうり, しろうり, かぼちゃ, すいか, 温室メロン, 露路メロン, なす, トマト, いちご, ピーマン, とうがらし, とうがんと, にがうり, へちま(食用), オクラ, ゆうがお, きゃべつ, はくさい, 非結球つけな, ほうれんそう, ねぎ, たまねぎ, たけのこ, レタス, セロリー, パセリー, はなやさい, アスパラガス, わけぎ, にら, みつば, しゅんぎく, にんにく, らっきょう, ふぎ, みょうが, うど, わさび, はたまねぎ, しそ, ブロッコリ, せり, レットキャベツ, こもちかんらん, ぼうふう, 体菜, からしな, だいこん, かぶ, にんじん, ごぼう, さといも, れんこん, くわい, やまのいも, ゆりね, しょうが, わさび大根, マッシュルーム, リーキ, チコリ, みずいも, まこも等
- § 果実…みかん, なつみかん, ネーブルオレンジ, はっさく, いよかん, りんご, ぶどう, 日本なし, 西洋なし, もも, おうとう, うめ, びわ, ふぎ, くり, すもも, いちじく, あんず, くるみ等
- § 花き…チューリップ, きく, アスター, 金せん花, ゆり, フリージャー, スイトピー, ばら, カーネーション, すいせん, グラジオラス, アイリス, その他花き

(3)小麦増殖実地指導地設置助成

以上の諸策設の結果, 昭和14年および15年の実績によると, 小麦の生産高は2倍の170万tに, 栽培面積は約5割増加し, 反当収量も2割1分から2割7分増加している。

大豆の場合は, 環境に対してより敏感であり, 用途も多様性が求められ, 豆科植物のため窒素の効かせ方による増収が困難であり, 土壌処理に対する問題があるなど, 小麦より更に品種の選定も栽培法も多様化し, より困難があろう。しかし, 日本人に対する大切な蛋白供給源として, 是非とも解決しなければならない問題であろう。

また大豆増産のための技術は, その他の豆科作物の増産技術とも密接な関連があるものと考えられる。中途半端な増産奨励対策では済まされない問題であろう。

- 類, 球根(チューリップ, ゆり, すいせん, ヒヤシンス, クロッカス, その他球根), 観葉植物, 花木類, 芝等
 - § 工芸作物…なたね, たばこ, 生茶葉, さとうきび, てんさい, こんにゃくいも, じょちゅうぎく, はっか, あま, い, しちとうい, こうぞ, みつまた, あい, ところろ, あおい, セラニウム, ラベンダ, ホウショウ, 紅花, アオラン, ほうききび, へちま, きくいも, 綿花, あさ, こうま, ラミー等
 - § その他作物…庭園樹苗木, 街路樹苗木, その他盆栽等苗木, 山林用苗木(すぎ, ひのき, まつ, からまつ, えぞまつ, とどまつその他山林用苗木), 稲わら(販売したもの), 植物生長(みかん, ネーブルオレンジ, なつみかん, はっさく, いよかん, りんご, ぶどう, 日本なし, 西洋なし, もも, おうとう, びわ, うめ, かき, くり, すもも, いちじく, あんず, くるみ, 茶桑, こうぞ, みつまた, オリーブその他)
 - § 養蚕…上繭, ぐず繭, 種繭, 繭綿
 - § 畜産…肉用牛, 乳用牛, 乳牛とく, 生乳, 豚, 採卵鶏, プロイラー, 鶏卵, 馬(転種馬を除く), めん羊, やぎ, うさぎ, 羊毛, と毛, やぎ乳, 水牛, 軽種馬, はちみつ, みつばち(輸出)ミンク, ギン狐, 不正常卵, あひる, 七面鳥, うずら卵, がちょう, きじ, あひる卵, カナリヤ, セキセイインコ, 文鳥, ジュウシマツ, その他のペット類, マウス, ラットその他実験用動物等
 - § 加工農作物…かんびょう, 切干だいこん, 干がき, かんしょ切干, こんにゃく荒粉, 荒茶, 畳表, ごぞ, 花むしろ, はっかとりおろし油, 俵なわ, むしろ, その他加工品
- 注…(未)は未成熟を示す